

第1回 総合都市交通マスタープラン策定検討委員会の要旨

日時：平成23年8月19日（金）午後1時30分から4時30分

場所：名張市防災センター 2階 防災研修室1, 2

【委員】コミュニティ交通とはどういった範囲を指すのか。また、集約連携型都市の軸としてコミュニティ交通がその役割を果たせるのか。公共交通という軸をコミュニティ交通、いわゆるコミュニティバスというものを対象にしていくのではなく、民間の公共交通という部分をしっかりと捉えつつ、合わせてコミュニティ交通というような捉え方がいいと思う。公共交通事業者がやっておられる部分も併せて、公共交通機関が軸となるという方向で考えていくべきである。

この総合都市交通マスタープランを考えていく場合には、コミュニティ交通だけを考える、あるいは路線バスだけを考えるというのは絶対にあり得ないので、それぞれの役割分担について明確に位置づけをした上で、どちらが相応しいのか、あるいはどのように連携するのかを考えていく。利用者からすれば、市が運営しようが民間事業者が運営しようが、バスには変わらないので、そういった考え方で検討していく。【委員長】

【委員】バスの利用者は高齢者が多いが、高齢化率などは地域によって異なり、名張市全体の高齢化率で議論しても実情に合わない。そうした地域毎の状況を踏まえながら、高齢化が進むなかで安心して暮らせる地域づくりを目標に、公共交通機関と地域コミュニティ交通の関係、地域コミュニティ交通のルートをゼロベースで考える必要がある。

市全体としては平均的にはこういうことだが、実は地域ごとで見ると全然違う状況がある。我々としてもそういう認識を持たないといけないし、これから議論を進めていく上でそういった全然違った状況があるというのも想定しながら進めていきたい。【委員長】

【委員】最近、「新しい公」というのが盛んに出てくる。地域も無報酬で一生懸命「新しい公」を担おうとしているが、最後に責任を「新しい公」に押し付けないでほしい。

「新しい公」というのは地域の方々のチャンスだと思っており、まさに地域の方々が地域にとって必要なものを考えながらやっていく、そういう時代になったと思っている。決して責任を押し付けるとかそういうわけではなく、行政と一緒に支えていく、知恵を出していく、そういう姿勢を持っていかなければならないと思う。特に交通は行政が一方的に何かをしても上手くいかない。【委員長】

【委員】今回のマスタープランの位置づけについて、総合計画があって都市マスタープラン、その横にその他各種計画があり、その中に地域コミュニティ交通推進方針がある。その辺りについて、コミュニティバスと路線バスをどうするかということであるが、本来、法律的に言えば区分するものではないことから、一緒に考えていく必要があると思っており、そうした中で今回のマスタープランは現在あるコミュニティ交通推進方針に寄らざるを得ないと思われるが、今回のマスタープランと地域コミュニティ交通推進方針の関係はどのように整理するのか。

交通についての一番の上位計画になるのはこの総合都市交通マスタープランであると考えており、この考え方の中で今の地域公共交通の計画に見直すべきところがあれば、その見直しも順次進めていく。

公共交通機関と地域コミュニティ交通という関係だけではなく、名張市の交通について大きな役割分担を整理していくのがマスタープランであり、その中の公共交通に関わる部分の方針を立てていくのが今の名張市の地域コミュニティ交通推進方針だと捉えている。【事務局】

【委員】長期未着手の都市計画道路の見直しを総合都市交通マスタープラン策定検討委員会で議論していくのか。

都市計画道路の見直しについては、当初の都市計画決定から 50 年が経過した今も未着手の路線があり、事務局としてはマスタープランの中で概ねの考え方については整理したいと考えている。それと都市計画道路の見直しについては庁内で目標を持っており、平成 25 年度中には何とか法手続きまでいきたいと考えている。見直しの視点としては、まずその都市計画道路が今もなお、必要な道路かどうかということの検証がある。都市計画道路はその機能として車を捌くだけでないことは十分承知しながらも、交通をスムーズに捌くことが一番大きな機能なので、その機能に対して今の道路計画が本当に必要か、他に必要な道路はないのかといった観点で検討して頂く予定である。【事務局】

【委員】「中心市街地を歩いてみたくなるまち」とあるが、この場合の市街地とはどこを指し、どの様に具現化していくのか。

名張の中では名張の既成市街地が一番歩いてみたくなるまちであろうと思っている。昨年、景観まちづくり連続講座に約 20 名の方が参加し、名張地区を歩いて頂いたが、やはり見て頂くとその価値とこのを感じて頂ける方が多かった。今日、名張に来る方が少ないということはあるが、今ある財産をどのように活かしていくのかということとは色々なまちづくりでもポイントになるだろうと思っており、その時に例えば町並みを壊した道路が本当にいいのかどうか、例えば「ひやわい」は、防災上は危険かも知れないが、そういう風情のある通りをどのように保全していくのか、あるいは保全しないのかといったことについても議論をして頂きたい。歩くということからすると名張地区は平坦で、「ひやわい」や初瀬街道もあるということで一番歩いて趣のある地区の一つだと思っており、当然まちづくりとの関連はあるが、そういった形や景観も含めてこれから方針で取り組んでいきたいと思っている。【事務局】

【委員】ビジョンの中に「安心」・「安全」も無いし、例えば災害に対しての緊急道路とかそういうことの記載が全然無いが、当然触れる必要があるのではないか。

「安心」・「安全」、それから「緊急」、非常に重要な観点なので、事務局の方で次回までに整理すること。「バリアフリー」という観点も当然入ってくる。【委員長】

【委員】マスタープランのビジョンは、夢ではなくて実際にあるものを活用しながら、どの様に構築していくのかというのがビジョンだと思う。その辺のことも考えて進めて頂きたい。

ビジョンについては、色々な考え方がある。色々な目標が積み重なってビジョンを描くというものあれば、そうではなくて何も全くなしから理想のビジョンを描くというものもある。色々な考え方があるが、私はこれからの社会を考えた時に本当は課題対応型のビジョンではなく、名張の人達が考えた素晴らしい姿を描くのが一番いいと思う。そのビジョンに市民の方々が「そうなんだ、こんなまちになるんだ。こんな交通になるんだ。」という期待を持って頂けるようなビジョンにしたいので、また皆様方にご提案頂ければと思う。【委員長】